

左から、西澤諭志、小坂橋基希(アカオニデザイン)、三浦晴子 (Ruupa)。

TUAD IS HERE

日常の中の芸工大 WEB

I'm here. vol.2 | 山形展 [絶/景] 西澤諭志+実験跡地
会期: 11月5日(水) - 17日(月)
会場1: (Ruupa) 〒990-0827 山形市城南町2-11-3 オフィス福原1F
会場2: ギャラリー絵遊 〒990-0033 山形市諏訪町1-4-10
主催: 東北芸術工科大学卒業生支援センター
協賛: 東北芸術工科大学校友会・卒業生後援会
キュレーター: 宮本武典 (美術館大学構想室)
WEB: www.tuad.ac.jp/museum

(Ruupa) という、感性の道場へタノモウ。

東北芸術工科大学で映像を学んだ後、山形でデザイン事務所「アカオニデザイン」を仲間たちと設立したデザイナーの小坂橋基希さんとフォトグラファーの三浦晴子さん。毎日デザイナーとして忙しく仕事をこなしていく中で、「感じたことをアウトプットする場をつくりたい」という想いが高まり、昨年、事務所ビルの1階にアートスペース (Ruupa) をオープンさせた。気の向くままに開催されるアートイベントは、細部までデザイナーらしいグラフィカルなこだわりが溢れ、アート通をうならせる好企画ばかり。企画展ごとにオリジナルの缶バッジを販売したり、スタッフ T シャツをつくったりと「高尚なアート」を見せるのではなく「アートをいかに楽しむか?」という遊び心を忘れない。そんな (Ruupa) と、芸工大出身のクリエイターにスポットをあてるアートショー「I'm here.」がチームを組み、新鋭写真家の登竜門「キヤノン写真新世紀」での受賞で、注目を集める西澤諭志さんの展覧会を開催する。研究生として大学で制作を続ける西澤さんにとって、(Ruupa) の2人は映像コースの先輩。この秋、西澤諭志のクールなフォト・インスタレーションは、(Ruupa) とのコラボレーションによって、さらに軽やかな進化をとげるはずだ。

※11月3日には情報デザイン学科准教授で写真家の屋代敏博氏をゲストに招いたトークイベントを開催! 詳細は→www.ruupa.jp

表紙のART

WEB



映像作品「Dazed」
大学院ビジュアルコミュニケーションデザイン1年
泉川健二・乗田朋子

今号の表紙は、絵を描くことが好きな乗田さんとCGが得意な泉川さんの共同映像作品「Dazed」をコマ送りで再現したものです。この作品は、学生国際ショートムービー映画祭クリエイト賞をはじめ、Digital Relation in Kagoshima 2007 大賞などさまざまな賞に輝きました。互いの感性に触発されながらアイデアを膨らませ、実写や2D3Dを多彩に織り交ぜながら独特の世界観を表現。現在はそれぞれ創作活動に取り組んでいるようですが、機会があれば是非また共作を話しています。

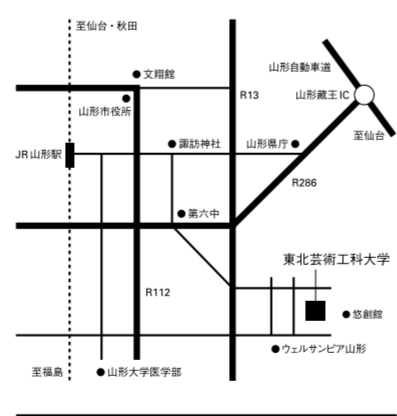
「g*g」とは?

芸工大広報誌のタイトルは「g*g」。最初の「g」はズバリ芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持った人々のことを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインかっこいい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民です。そんな芸術市民のみなさんと芸工大が、「+」より強い「*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g*g」、親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。

東北芸術工科大学

- ◎芸術学部
 - 美術史・文化財保存修復学科
 - 歴史遺産学科
 - 美術科 [総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸 (漆芸・陶芸・金工) /テキスタイル]
 - ◎デザイン工学部
 - 企画構想学科
 - プロダクトデザイン学科
 - 建築・環境デザイン学科
 - グラフィックデザイン学科
 - 映像学科
 - ◎大学院芸術工学研究科
 - 博士後期課程 芸術工学専攻
 - 修士課程 [芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻 仙台スクール]
 - ◎研究機関
 - 総合研究センター/東北文化研究センター/文化財保存修復研究センター/こども芸術教育研究センター/デザイン哲学研究所/東アジア芸術文化研究所/社会芸術総合研究所
- ※上記は2009年度の学科・コース構成です。

ACCESS



東北芸術工科大学広報誌 g*g

2008年10月10日発行
発行: 学校法人東北芸術工科大学
〒990-9530 山形市上樺田3-4-5
東北芸術工科大学広報担当
TEL: 023-627-2246 FAX: 023-627-2185
WEB: www.tuad.ac.jp
E-mail: hello-gg@aga.tuad.ac.jp

Design: Creative Room J1
Printing: Tamiya Printing co.,Ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2008

芸術市民といっしょに創る芸工大広報誌

g*g

[ジー・ジー] 2008 AUTUMN VOL.7
東北芸術工科大学



TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN

WHAT IS GOOD DESIGN?

本当にいいデザインのあるべき姿とは。

去る8月22～24日、3日間にわたって東京ビッグサイトで開催された「グッドデザインエキスポ2008」。

今年も芸工大プロダクトデザイン学科が参加しました。

それにあわせて、「グッドデザイン賞」の理事でもある本学デザイン哲学研究所の

植松豊行教授が、本当の「グッドデザイン」のあるべき方向を示唆。

これからのプロダクトデザインはどこへ向かうべきかをいっしょに考えてみました。

優れたデザインに与えられる「グッドデザイン賞」。皆さんも丸い「Gマーク」を一度は目にしているはず。単に見た目の形や色だけでなく、使い勝手や環境への配慮など、多角的にデザインを評価して与えられています。そのグッドデザイン賞を主催する(財)日本産業デザイン振興会の理事でもある、デザイン哲学研究所の植松豊行教授は、激しく変化している世界の中で、今後の「グッドデザイン賞」のあるべき姿をしっかりと描いています。

今は、グッドデザイン(=良い、正しいデザイン)とは何か…その基準が明確になっていない、と植松先生。「グッドデザイン賞」が始まったのは、欧米の製品をコピーした粗悪な日本製品が流通していた戦後の1957年。当時は“良いもの=模造品ではないもの”という、低い水準ながらも明確な基準がありました。ところが近年は、作られる製品が大幅に増え、デザインの評価軸が複雑化していることもあり、曖昧になりつつあります。そこで、植松先生が良いデザインの方向性を見出すヒントとして注目しているのが、近代デザインの確立期に提唱された“Form follows function”(形態は機能に従う)や“MAYA”(Most Advanced Yet Acceptable:先進的でありながら、社会に受け入れられる)という言葉。エコロジーやユニバーサルデザイン、サステナブルデザインまで要求される現代のプロダクトデザインでも、シンプルな表現の中にある基本理念は通用すると考えています。また、デザインと一口に言っても、全く新たな典型を生み出していく革新的デザインと、今ある典型をより良く洗練させるデザインの2つの側面があるという点にも着目。この2つのデザインは同じ基準で計れるものではなく、別の視点で評価すべきだと言います。さらに植松先生が一番忘れてならないこととして挙げているのが、デザインの“魅力”。どんなに個性的だったり、地球環境や人に優しくても、多くの人にとって魅力的に感じられないものは、受け入れてもらえません。

サービスやイベントにもグッドデザイン賞が与えられるほど、デザイン概念が広がった現在。時代とともに変遷する表面的な魅力に流されず、魅力や価値観を正しい方向へとリードできるデザインこそが、グッドデザインの姿だと言えそうです。



植松豊行 Uematsu Toyoyuki
1948年生まれ、香川県出身。武蔵野美術大学造形学部産業デザイン学科卒業。2002年にパナソニックデザイン社社長に就任し、在任中にブランドの確立と松下産業株式会社のV字回復に貢献。(財)日本産業デザイン振興会理事などデザイン界の要職を歴任。

自然を味方にグッドデザインを生み出す芸工大を印象づけた。WEB

名だたる企業やデザイン関係者など、社会へのアピールの場として、芸工大は毎年「グッドデザインエキスポ」に出展しています。展示する学生作品の斬新なアイデアや完成度の高さなどを通じて、着実に大学への注目度も上がっている様子。今回は、プロダクトデザイン学科の産学連携の取り組み「産学共創」を中心とした作品を展示したほか、特設ステージでは上原勲准教授と学生3名が「発想力と感性の解放2008」と題して、学科での教育特徴などのプレゼンテーションを行いました。その中で上原先生は、東北・山形の豊かな自然を身近に感じながら発想することの優位性、独自性を強調。喧噪を離れた自然豊かな環境と、そこで学ぶ学生たちに触れることで、身も心もリフレッシュできると産学共創で大学を訪れる企業の方は口を

揃えるのだとか。その企業の方へ影響を与える学生の資質にも、大きな自信を添わせる上原先生。キャンノとの産学共創プロジェクトの説明を、先生とともにステージ上で堂々と行った学生がそれを実証していました。展示ブースでも、運搬や設置時間での制約が多いことを逆手にとった、シンプルで開放的な空間演出と作品群が功を奏し、たくさんの来場者に関心を持って頂けたようです。プロダクトデザイン学科では今後も、人間力と解決力、人や環境を気づかう「心」を重視し、そこから本当に良いデザインを追究していきます。



上原勲 Uehara Isao
プロダクトデザイン学科准教授。東京芸術大学美術学部工芸科卒業。主にモーターサイクルデザインで様々な賞を受賞。



キャンノ株式会社との産学共創プロジェクトで製作した検証用の実物大モデルなども展示。



画面中央の一輪挿しは、秋山萌さんの卒業制作作品「YURA YURA」。シリコンを用いた弾力のある質感が特徴で、近くこのシリーズが製品化される予定。



上：プレゼンテーションに臨むプロダクトデザイン学科の上原勲准教授と学生たち。ステージ発表の様子は、WEB上で動画をご覧ください。

下：仕切りのないオープンな展示ブースには大勢の来場者が足を止めてくれた。

芸工大を巣立ってさらに成長、そして活躍。グッドデザイン賞に輝いたOBたち。



EPSON E-300/E-500/E-700

セイコーエプソン株式会社
井上佐枝子

本体からパッケージまで、誰にでも使えるように、シンプルにするということを意識してデザインしました。また、よい意味で「今までのプリンタらしくないデザイン」を狙いとし、使用しないときはふたを閉じ、環境に溶け込むと共にボタンを隠すシンプルな形で、使用するときには操作が簡単な大きなボタンが現れるようにしてあります。使いやすさの向上のために、操作性や機能性などは、複数回のユーザー調査を行っています。



井上佐枝子 Inoue Saeko
1978年宮城県生まれ、尚美学堂高等学校出身。2000年プロダクトデザイン学科卒業。



MITSUBISHI RO-DG1

三菱電機株式会社 デザイン研究所
伊藤大聡

目指したのは「様々な人が毎日ストレスなく使えるオープンレンジ」。弱視の方にも見え易い黒地に白文字の「新バックライト液晶」を搭載し、本体上部にレイアウトした操作部は視線に近く自然な姿勢で操作が可能です。また、本格調理機器をイメージしたシンプルながら力強いフォルムと本物素材を組み合わせた高い質感を追求することで、美味しい食卓を演出する「道具」としてのたまたまを感じさせるデザインにこだわりました。



伊藤大聡 Ito Hiroaki
1979年群馬県生まれ、群馬工業高等専門学校出身。2003年プロダクトデザイン学科卒業。



アルノスチェア

株式会社岡村製作所
藤田寿人

子供が本格的に学習を始める新入学時から、正しい姿勢で座って欲しいと思いました。成長する子供が、常に最適な着座姿勢を簡単に設定できるように、シンプルな操作性とし、長い間愛着をもって使い、インテリアにも馴染むように心がけました。従来のものに比べ部品点数を少なくし、製品の長寿命化を狙いました。組立てには接着剤を使用せず、ユーザーの健康面や、分別廃棄などにも配慮。座面にはリサイクル性の高い素材を用いています。



藤田寿人 Fujita Hisato
1975年山形県生まれ、日本大学山形高等学校出身。1997年プロダクトデザイン学科卒業。



Panasonic TH-58PZ750SK/50PZ700SK/42PZ700SK

パナソニック株式会社
デザインカンパニー 大場智博

シンプルな筐体を追求し「際立つ映像」「省スペース」を実現。一体感のある専用台との組合せで「薄一枚のボード感」を演出しました。リモコンは、使用頻度の高いボタンや文字のサイズの大形化を図るなど、快適な操作を実現しました。4色カラーキーは、色覚特性性にも区別しやすい色調を採用しています。長寿命の無鉛画面パネルや、竹繊維を用いたスピーカーの採用など地球環境にも配慮。お客様に長く愛される商品を目指しました。



大場智博 Oba Tomohiro
1978年山形県生まれ、福岡高等学校出身。2001年プロダクトデザイン学科卒業。写真は、デザイナー3名と取組んだ製品。

高校生

★ デザイン選手権大会



左から、木村菜さん、高島絵理さん、井上唯さん（ともにデザイン工学科3年生）。右端は東根工業高校OGで、現在、芸工大美術科洋画コース4年の矢口聖奈さん。

PICK UP 地元山形で唯一、決勝進出を果たした東根工業。高校生らしく、自分たちらしく、めざすは優勝。

東根工業高等学校では、デザイン工学科の生徒18名6チームが全国高等学校デザイン選手権大会にエントリー。第15回という節目の大会で、この3人の提案が358案の中から入賞を果たしました。決勝大会は来る10月26日。発表準備に取りかかる3人のもとをOG矢口さんが訪ねました。

東根工業高校は「全国高等学校デザイン選手権大会」の参加常連校。今年は6組18名がエントリーし、この高島・木村・井上組が山形県勢では決勝大会へとコマを進めました。デザイン選手権では応募された提案を一次審査し、入賞12チームを選出。決勝大会のプレゼンテーションで優勝を決めます。今年はこれまでの仲良しの生徒でのチーム編成からくじ引きによる編成に変更。生徒たちが望んだこの方法が功を奏し、昨年までは見られなかった意見の食い違いや徹底した討論、そしてそこから優れたアイデアが生まれていったというのです。高島・木村・井上組でも「あ・る・く」をテーマにすることは

早々と決まったものの、それからの展開がなかなか進まず、担当の長澤先生も内心ヒヤヒヤして見ていたのだとか。その遅れを3人の連携と分担で見事に巻き返し、入賞を果たしたのです。10月26日に開催する決勝大会の公開プレゼンテーションに向けて、準備にとりかかっている3人のもとを東根工業高校のOGで芸工大美術科洋画コース4年の矢口さんが訪ねました。矢口さん自身も高校時代にはデザイン選手権に出場しており、現在は学生スタッフとして大会の運営に参加しています。そんなさまざまな経験や知識をもとに、矢口さんから後輩たちにプレゼンテーションに向けて心強いアドバイスが送られました。

それまでは入賞自体が予想外だったという3人ですが、「もうここまで来たら目指すは優勝。これまでの東根工業のベスト記録“準優勝”を更新するためには優勝しかありませんから」と熱く宣言。決勝大会では、「あ・る・く」というアナログなテーマにふさわしく、手作り感のある高校生らしいプレゼンテーション心がけたいと笑顔で話してくれました。 **WEB**

「全国高等学校デザイン選手権 決勝大会」
会期:10月26日(日)12:30-17:00(開場12:00)
会場:本学201講義室(入場無料)
決勝大会について詳しくは、WEB:www.tuad.ac.jp/hidechampで。



テーマは「あ・る・く」。歩くという日常的な行為をもっと楽しくできないかと考えた3人。地球温暖化やガソリン価格の急騰、健康志向など、歩くことの重要性が見直されている今日性も反映させつつ「あ・る・く」をデザイン。楽しく歩くためのアイデアを提案しています。提案1は、「あみだ道」。商店街の道路があみだくじになっていて、たどっていくというある商店につながっているというものです。あみだくじに導かれて今まで行ったことのない店にたどりつくといったワクワク感も。提案2は、「ウォーカーボン」。これは歩く人ほどトクをする仕掛けを作って、大人たちをもっと歩かせようというのが狙い。これらの提案内容をパソコンの編集ソフトを使い、決勝大会へ進むための一次審査資料として見やすい4枚のパネルにまとめた。

全国高等学校デザイン選手権大会

この大会は、全国の高校生を対象に「社会を良くする」ための提案を募るもので、毎年開催しています。「デザイン」を冠していますが、単に見た目などの表現技術を競うものではありません。本学では、デザインを単に色や形をまとめる技術ではなく、社会や日常の暮らしのなかから、問題や課題を発見し、解決策を具体的に提案していく一連のプロセスのことを指し、社会全体、全ての人

に関係することだと捉えているからです。この考え方の背景には、「人々が幸福に生活できる社会をどのように実現するか」という本学の建学理念があります。この大会は、独創的であること、社会・文化的な価値を誘発していること、新しいコミュニケーションを提案していることなどが評価され、2006年度のグッドデザイン賞を受賞しました。



大学で気づかされた環境への深い関心。仕事柄、三浦先生との交流も継続中。

大工だったおじいさんの影響もあって、建築を学びたいと建築・環境デザイン学科を選んだ二藤部さんは、大学で学修を進めるうちに環境問題への関心が高まっていったといいます。三浦先生のゼミでは、省エネ活動に積極的な庄内町や高島町を訪れ、それらの取り組みを実践的に学ぶなど、さまざまなかたちで参加してきました。卒業後、「山形県地球温暖化防止活動推進センター」にアルバイトとして働いていた二藤部さんは、1年後には正式採用。現在は、電

灯の代わりにロウソクを灯すキャンドルナイトや省エネ研修会の企画運営など、温暖化防止につながる推進活動に取り組んでいます。大学での学びや体験が活かされる仕事で、なにかと三浦先生に顧問や講師をお願いすることも多く、卒業後も芸工大にはよく足を運んでいるのだとか。特に、今年は三浦先生が最も得意とする住宅の省エネが重点目標。二藤部さんが先生と共に仕事を進める場面がますます増えそうです。



二藤部真澄 Nitobe Masumi
山形県出身、2004年度デザイン工学部建築・環境デザイン学科卒業。現在は、NPO法人「環境ネットやまがた」山形県地球温暖化防止活動推進センターに勤務。省エネキャンペーンなどのエコ活動を企画運営している。

●三浦先生へひとこと
演習では先生の車で風車の町、立川(現・庄内町)にも連れて行ってもらいましたね。先生に教えてもらったことすべてが私の仕事の基礎になっています。これからも仕事でお世話になりたいので、宜しくお願いいたします。



芸工大OB ★ 教授

先生の環境問題への真っ直ぐな思いに共鳴。

建築を学ぶため建築・環境デザイン学科を選んだ二藤部さんでしたが、三浦先生との出会いによって環境問題への意識に目覚めたという。

環境問題を身近なものとして捉え、住まいや暮らし方でできるエコを提案・推進。

風力発電の町として知られる庄内町をはじめ、県内さまざまな地域を飛び回り、省エネのアドバイスや推進イベントなどの活動をしているのが二藤部さんの恩師、建築・環境デザイン学科の三浦秀一准教授。二藤部さんの在学中と同じように、今も学生たちを愛車プリウスに乗せて地域を飛び回る忙しい日々です。住民一人一人がエコに取り組む環境モデル都市ともいえるような町づくりを目指して、毎年いくつかの町と連携し活動しています。「彼女はとて真面目

な学生で、自分の意見をしっかり持った上で、人の話にもちゃんと耳を傾けられる人でしたから、人の要望に応える今の仕事には適任。」と二藤部さんの活躍を喜んでいました。これからは省エネから自然エネルギーを生かして暮らす時代へ。つまり、自然豊かな山形は、環境問題を学ぶ上で絶好のロケーション。建築・環境デザイン学科での学びは、地球温暖化対策などが急務となっているこれからの社会で大いに期待される分野と言えそうです。



三浦秀一 Miura Shuichi
兵庫県出身。建築・環境デザイン学科准教授。人-くらし-まち-地球というつながりの中で環境問題に取り組む。学生たちと各地を訪れ、それぞれの地域に合わせた省エネやエコプランを提案し、その実践にも協力を惜しまない。

●二藤部さんへひとこと
地球のため、そして地域のために、そこに暮らす人々が幸せな未来を描けるよう、楽しく、地域の良さを生かしながら地球温暖化防止活動に励んでください。これからもずっと応援しています。



庄内町の大きな風力発電機をバックに。環境問題に取り組む先生らしく愛車はハイブリッドカー。

建築・環境デザイン学科

等身大の建築や空間から、それを取り巻く街や都市、景観を学ぶ学科です。地域社会と一緒に作り上げる実践的なプロジェクトを展開。建築デザイン、ランドスケープデザイン、リノベーション、サスティナブルデザイン、エコロジカルデザインの5分野を軸に、設計やデザインに求められる基本的な知識や技術から応用まで段階的に学んでいきます。



海外の大学との留学制度

建築・環境デザイン学科ではデンマーク王立アカデミーとの留学制度を設けており、毎年数名の交換留学を行なっています。今年はデンマークから3名の留学生を迎え、本学で学修をしています。なおプロダクトデザイン学科もデンマーク王立アカデミーとの留学制度を設けている他、全学科対象でスウェーデンのコンストファックとの留学制度も設けています。



OPEN GALLERY

RECOMMEND ART EVENTS

本学の学芸員が推薦する、この秋に必見のアートイベント



1 Myth in us



2 Design by Keiichi Bando



3 Shinichiro Nakahara / Playmountain



4 Photo by Syoin Kajii

今年6月にソウルのトータル美術館で開催された『Myth in us | 우리안의 신화』展は、アートにおける神話の今日的解釈をめぐって、韓国の主な芸術系大学と、日本から唯一の参加となった本学の学生が共同で作品を発表した。展示空間をシェアした梨花女子大校チームは、あらかじめ論文で「神話」に関するリサーチを各々執筆し、それをもとにコンセプトアートを制作していた。対して僕がセレクトした芸工大側の作品は、妖怪・マタギ・トランスダンス・巨大ミミズと、一度見たら忘れられない呪術的なビジュアルの洪水で、両校の合同展示ブースの鮮烈なコントラストは美術館全体の中で異様に目立っていた(1)。この秋の山形展でも、巡回企画にも関わらず韓国メンバーはすべて新作を持ち込むという力の入れよう。予測不能のアート・セッションが、芸工大のキャンパスを舞台にどんな混沌とした「神話的世界」をつくり上げるのか？ ソウルと山形、知性と野生のハイブリッド効果に注目だ。

ちなみに、韓国の『Myth in us』展では、オープニング時にシンポジウムが開催され、その中でスタジオジブリのアニメーション『千と千尋の神隠し』や『もののけ姫』を民俗学的に読み解くという試みがあった。ソウルのアートシーンでもジャパニメーションの席巻ぶりが確認できたのだが、『千と〜』の舞台である「湯屋」は、山形の銀山温泉がモデルだというから、この秋に来日する梨花女子大校生たちは、宮崎駿ワールドを実地体験できる、というわけだ。

続いて紹介する『デザインのシュウカクサイ』はグラフィックデザイン学科の坂東慶一准教授(2)をコンセプトアーティストに迎えたトークイベント。テーマは「デザインによる地域活性化」と、一見地味だが、ゲストには BEAMS

の子供部門『こどもビームス』のディレクターでLANDSCAPE PRODUCTSの中原慎一郎氏(3)や、弘前・吉井倉庫での『AtoZ』展で奈良美智とのコラボレーションが2006年アート界の話題をさらった大阪のデザイン集団・grafの服部滋樹代表など、ニッポンのプロダクトデザイン界の次代を担うキーマンが顔を揃える。この他、アノニマススタジオから『エフスタイルの仕事』を出版した本学 OG のデザインユニット・F/style も参加するなど、地場産業と共同で魅力的なプロダクツを提案し続けるデザイナーたちの仕事の流儀が開示される。デザイン工学部の学生諸君の必聴はもちろん、デザインやクラフトに興味がある市民の方々にはぜひ聴講してほしい。

さらにこの『デザインのシュウカクサイ』では、実際のトークで取り上げられる予定のプロダクツの展示会や、山形の伝統的な地場産業の工房をめぐるスタディー・ツアーも用意している。テクノロジーからエコ&ローカルティへ…北京オリンピック以後の世界が、科学技術やエコノミー重視の進歩主義からの転換を余儀なくされている今日、地域文化に根ざしながら誠実にものづくりに携わっているデザイナーや職人さんのお話は貴重かつ重要。11月15日(土)はぜひ芸工大へ!

この他にも、卒業生クリエイターによる展覧会『I'm here.』の山形展が市内2つのギャラリーで開催され、大蔵村では2つのアーティスト・イン・レジデンスが始動中。特に四ヶ村で滞在取材をおこなっている写真家・梶井照陰さん(4)のライドショー(11月6日)もお薦め…と、ローカルとグローバルの両極に振れながらのアート・プロジェクトはまだまだ続く。(詳しくは www.tuad.ac.jp/museum で公開中)

宮本武典(東北芸術工科大学主任学芸員)

WELCOME TO TUAD

開かれた芸工大への扉



1



2



3



4

1: 東京から新幹線で約1時間40分。仙台駅前に位置する大学院仙台スクール。2-3: 各界の第一線で活躍するプロフェッショナルを教授陣に迎えると共に、講義は働きながらも修学できるように、平日の夜間や土曜日に開講。
4: アットホームな雰囲気が漂う、2008年度の大学院仙台スクールの学生とスタッフ。

大学院仙台スクール

仙台バルコの隣にそびえる高層ビル「アエル」。そのアエルの7階に、東北芸術工科大学大学院仙台スクールと仙台事務所があります。大学院仙台スクールは、知的財産や付加価値を生み出す、コンテンツ産業やビジネス界の牽引者を教授陣に実践的な教育を展開し、東北随一といえるコンテンツ/ビジネスプロデューサーの養成機関となっています。その分野を学ぶ大学院生の部屋は、高速の映像処理が可能な機材、多数の書籍やDVDソフトなど、専門の研究に欠かせない設備が充実。事務所は月曜から土曜の9:00-18:00に開いており、大学院への進学はもちろん、学部学科への入試相談も受付けているほか、在学証明書や成績証明書、卒業/修了証明書などの発行も可能です。大学院仙台スクール主催のイベントや講演会なども定期的に開催しています。近隣にお住まいの方はもちろん、ショッピングで仙台駅前にお越しになった際など、お気軽にお立ち寄り下さい。

WEB: <http://conpro.jp/>



CLICK HERE!

WEBでさらにg*gツウになろう

本誌g*gでご覧いただいた内容は、WEBでもご紹介しています。さらに、WEBならではのお楽しみもいっぱい。本誌ではご紹介しきれなかった作品やエピソードなどをプラスα編集。ご期待ください。また、読者のみなさんにご参加いただくコーナーへの申し込み・お問い合わせ窓口にもなっています。下記のWEBサイトをクリック&チェックしてみてください。

WEB: <http://gs.tuad.ac.jp/gg/>

<http://gs.tuad.ac.jp/gg/>

OPEN GALLERY

EVENT SCHEDULE WEB

9/13-11/24

現代日本画家岡村桂三郎展

美術科の岡村教授が個展を開催。独特の世界観をもつ近作から最新作までの20点を出品。
 『岡村桂三郎展「現代彫刻の変革者」』
 会期：9月13日(土)～11月24日(月・祝)
 会場：神奈川県近代美術館鎌倉

9/28-10/26

廃校に活気を、芸術に熱い視線を

東北芸術工科大学の在学生グループ「かもしか隊」がディレクションを担当する「第4回あとリエマサト展覧会 タテキフウミ」を開催します。
 「タテキフウミ」
 会期：9月28日(日)～10月26日(日) 11:00～18:00
 会場：朝日町旧立木小学校
 (上記期間中の土・日・月曜日のみ開館/入場無料)
 協力：朝日町/朝日町教育委員会/朝日町立木地区の皆さん/岳遊食参伏
 企画：あとリエマサト/かもしか隊
 ※文部科学省現代的教育ニース取り組み支援「芸術とデザインによる廃校活用と地域教育」の一環。

10/1-29

テキストイルにとらわれない表現力

テキストイルコースの辻けい教授が個展を開催します。ぜひお越し下さい。
 「辻けい展 Tsuji Kei ～2008 Red like the spring water あかからあかへ～」
 会期：10月1日(水)～29日(水) 10:00～18:00 (日曜休廊)
 会場：INAX ギャラリー (東京都中央区京橋)



10/1-12/7

温泉文化とアートの融合

「肘折温泉逗留芸術家 2008」
 会期：10月1日(水)～12月7日(日) 10:00～16:00 (火曜休廊)
 会場：ギャラリーひじおりの灯(肘折温泉旧郵便局舎)
 (関連イベント)
 「番場三雄 素描展 | 風景の恩恵ー山形・肘折」
 会期：10月1日(水)～11月3日(月・祝)
 「アーティストインレジデンス | 竹田佳代+広瀬直子」
 展覧会期：11月5日(水)～12月7日(日)
 「トークセッション | あらたな湯治文化は可能か？」
 出演：赤坂憲雄教授/森繁哉教授/宮本武典芸芸員
 会期：11月3日(月・祝) 15:00～17:30
 定員：30名(入場無料)



10/17-1/29

入試シーズンもいよいよ本番

『2009年度入試日程』
 (自己推薦入学試験)
 出願：10月17日(金)～31日(金)
 試験：11月9日(日)
 合格発表：11月14日(金)
 (一般入学試験(前期))
 出願：1月7日(水)～21日(水)
 試験：1月28日(水)～29日(木)
 合格発表：2月12日(木)
 (センター試験利用前期入試(1科目利用))
 出願：1月7日(水)～21日(水)
 試験：1月28日(水)～29日(木)
 合格発表：2月12日(木)

10/22

まじめに素直に楽しく、アニメにどっぷり

日本を代表するアニメプロダクションのスタジオびえろ代表取締役でもある布川都司教授が、アニメ制作の喜びや楽しさ、これからの可能性を語ります。
 『日本のアニメの30年 びえろ社の30年～仙台のこれからの可能性～』
 会期：10月22日(水) 18:30～20:30
 会場：大学院仙台スクール
 定員：先着70名(無料)
 お申込・お問合せは、大学院仙台スクールまで
 TEL: 022-716-6377

10/23-11/12

ソウル⇄山形～学生たちのアート交流

『Myth in us/私たちの神話』
 会期：10月23日(木)～11月12日(水) 10:00～17:30 (日曜休廊)
 会場：7F ギャラリー/studio144 他
 (関連イベント)
 『大槌秀樹パフォーマンス|ワンダーランドシリーズ』
 会期：10月23日(木) 15:00～16:30
 会場：図書館 studio144
 『柴野緑による公開設置|焼失計画』
 会期：10月23日(木) 17:30～18:30
 会場：大学正面広場
 『参加学生によるプレゼンテーション』
 会期：10月24日(金) 17:40～19:00
 会場：7F ギャラリー



10/25-1/17

あこがれの執筆活動への第一歩

山形市在住の文芸評論家 池上冬樹氏がコーディネートする文章講座。文学に興味のある方のご参加をお待ちしております。
 『東北ルネサンスプロジェクト 小説家・ライター講座』
 会場：仙台市文学館 講習室
 (小説とシナリオの関係 朱川湊人)
 会期：10月25日(土) 17:00～
 (小説家講座で学んだこと 篠田節子)
 会期：11月22日(土) 17:00～
 (自分にあった文学賞を選ぶには 茶木則雄)
 会期：12月20日(土) 17:00～
 (掘り下げるテーマ、切り開く物語り 熊谷達也)
 会期：1月17日(土) 17:00～

10/26

高校生らしい発想と発表にご注目

全国の高校から寄せられた358案の中から選ばれた12案のプレゼンテーションを行なう、全国高等学校デザイン選手権大会 決勝大会を開催します。高校生が社会に対して投げかける、真っすぐな提案をぜひご覧下さい。
 『全国高等学校デザイン選手権大会 決勝大会』
 会期：10月26日(日) 12:30～17:00 (開場12:00)
 会場：本館201講義室 (入場無料)

10/29

地球のためにデザインにできること

『エコデザインで地球環境問題と戦う』
 会期：10月29日(水) 17:30～18:50
 会場：東北芸術工科大学407講義室
 講師：山本良一(東京大学生産技術研究所教授)
 対象：一般/学生(入場無料)
 主催：東北芸術工科大学デザイン哲学研究所



10/30-11/3

観る人々のココロに触れたい

東京デザイナーズウィーク2008 100% futuresの学生作品展へ出展します。芸工大のテーマは「触れる」。約10名のプロダクトデザイン学科の学生がテーマに合わせてデザインし、作品発表を行ないます。
 『東京デザイナーズウィーク 100% futures』
 会期：10月30日(木)～11月3日(月・祝)
 会場：明治神宮外苑中央会場ほか
 WEB: www.da-npo.org/tdw08



11/1-12/13

本ができるまでの表側と裏側

本や雑誌はどうやって作られるのか、雑誌、書籍の編集者をはじめ、写真家、翻訳家など出版業界で活躍するゲストをお招きし、本づくりの「今」をお話し頂きます。
 『東北ルネサンスプロジェクト 編集者講座』
 会場：仙台市文学館 講習室
 (翻訳という仕事 加藤しをり)
 会期：11月1日(土) 17:00～
 (書評とはなにか 米田綱路)
 会期：11月15日(土) 17:00～
 (印刷技術講座 竹下直義)
 会期：12月13日(土) 17:00～

11/5-17

卒業生クリエイターのアートショー

『I'm here. vol.2 | 山形展[絶/景] 西澤諭志+実験跡地』
 会期：11月5日(水)～17日(月)
 会場：(Ruupa)/ギャラリー-絵遊+蔵だいます
 時間：11:00～18:00(日曜13:00～17:00/火曜休廊)
 (関連イベント)
 『対談 | 西澤諭志×屋代敏博』
 会期：11月8日(土) 18:00～20:00
 会場：(Ruupa)
 『レクチャー | 集落とアートをめぐる七晩』
 会期：11月5日(水)～16日(日) 18:00～20:00
 会場：ギャラリー-絵遊+蔵だいます
 プロデュース：森繁哉+実験跡地



11/8-12/6

東北の大地への思いが満ちてくる

ゲスト講師と赤坂憲雄大学院長とが対話をしながら、東北の大地に息づく「知の系譜」をひもときます。
 『東北ルネサンスプロジェクト 赤坂憲雄対談「東北・知の系譜」』
 会場：仙台市文学館 講習室
 (地域史を語る 森まゆみ) 会期：11月8日(土) 17:00～
 (土方巽を語る 森繁哉) 会期：12月6日(土) 17:00～

11/14-19

産学連携の成果を広くアピール

プロダクトデザイン学科が産学連携で取り組んだ作品を中心に、東北圏最大のデザインイベントといえる仙台デザインウィーク2008へ出展します。
 『仙台デザインウィーク2008』
 会期：11月14日(金)～19日(水)
 会場：せんだいメディアテーク
 WEB: www.sdwk.jp

11/15-28

大学で地域デザインの未来を語る

『デザインのシュウカクサイ』
 会期：11月15日(土) 13:00～17:30
 会場：東北芸術工科大学本館ラウンジ特設会場(全席自由/入場無料)
 出演：中原慎一郎(LANDSCAPE PRODUCTS)/服部滋樹(graf)/エフスタイル/坂東慶一(准教授・グラフィックデザイナー) 他
 (関連イベント)
 『展示版: デザインのシュウカクサイ』
 会期：11月15日(土)～28日(金) 10:00～17:30
 会場：東北芸術工科大学本館ラウンジ
 『山形の地場産業をめぐる見学会』
 会期：11月16日(日) 9:00～18:00
 定員：20名(参加費/5,000円/要申込)

12/6-3/28

自作なら愛着もひとときわ、陶芸始め

『陶芸講座(型から作る織部・志野) [全15回]』
 会期：12月6日～3月28日の土曜日 14:00～17:00
 受講料：48,000円(粘土代は別途徴収)
 申込締切：11月12日(水)
 お申し込みは、エクステンション担当まで。